

# 人生を拓く

(46)

大城

剛さん(92)

モトヨさん(91)

東雲

富山県から入植3代目の剛さんとモトヨさんがお見合い結婚したのは1949(昭和24)年。剛さん24歳、モトヨさん23歳でした。

「変な時代だったよ。2つ上に姉がいたもんだから、仲人が2人ずつ、お互いがぶつかるくらい来たんだよ。毎日来るの。返事しなければまた来るんだよ」。

モトヨさんの父、留蔵さんは1934(昭和9)年、尋常小学校2年の時に早逝。母、シヨさん(死亡年不詳、83歳で逝去)は豆腐を作って一家を養いました。

「母親と一緒に出面とりにずいぶん行ったよ」。仕事のご褒美に、と電車に乗ってまつり見物に連れて行ってもらえるのが何より大好きでした。

剛さんは父、久作さん(昭和46年、73歳で逝去)、母、ムラさん(平成元年、86歳で逝去)の長男として生まれました。4歳で肺炎を起こして半年間入院。後遺症で高熱が続いたため脳膜炎にかかり「学校に行って勉強したことない」ほど病弱な女子でした。

それでも家業の農業をやるうちいつしか頑強な体に。そんな時、畜産業を始めた34歳、長男が生まれた年に品評会に牛を運ぼうとしてつないであったロープの間に挟まり、肋骨(ろっこつ)が5、6本折れた事故に。

「誰もいないから、這うようにして山道



を歩いて町の病院に行って、2センチくらい刺さった骨を除去してもらったんだ。その時、『手術をするから、家族みんなを集めてくれ』と言われたさ。5秒から10秒呼吸しなければ終わっていたんだと。その後6年間仕事に行けなかったそうです。

「前の年に親に反発して牛飼いを始めた矢先だったよ」。そのころ大工仕事も請け負っていました。7年目で仕事に行ったら、恐くて2階に上がれなくなっていたよ」。

さらに「急性リウマチで手が動かなくなっ...」と再び農業に。「朝3時ごろから起きて草刈って、出面とりにして、めん羊の毛刈りもしていた。多い時には1日30頭も刈ったさ。人に負けん根性で頑張ってきた」と振り返りました。

農作業を止めず、治療に専念しなかったため、6年の間に3回も医者に怒られたそうです。「息切れすると思つて医者に行ったら、『肺が癒着している』って」。

「お嫁に来てからこの人は何回も死にかけているの。馬に蹴飛ばされ、トラクターから落ちて...。『痛いから帯で縛ってくれ』って言ってね」とあきれ顔。骨折した所を帯で体に縛り付け、そのまま農作業を続けたこともあったそうです。

数々の病气やけがを克服した剛さん、3年前に「ホープ大雪」チームで出場した全道高齢者ゲートボール大会で優勝したほどの体丈夫です。

## 俳句

一面に六花輝く夜明け前

よちよちの兎を走らせて雪解急

雪解けやダンスシューズの独り言

異人弾くギターの音色は酒ほがい

雪の羽根まとう一枝鉛空

思い出も溶けてピカソの雪だるま

ものの芽や二十歳の黒目揺れる午後

昭和ってあかるいびんぼう冬蜜柑

太か夢雪解にさわぐ農夫の血

土匂うぬくぬくとして草を抱く

降る雪や施設の中になれ一人

土匂う農婦の胸も踊りだす

ここにいろよ雪解待ってるアンモナイト

土恋し今年は何を植えようか

凍道や車も人もスロースロー

手前生国湯船で交わす湯治客

三島 智

若田 郁

本田 咲

佐々木 りえ

斎藤 夕桜

山内 みゆ

由川 真人

小林 ろば

杉山 ひろのり

保科 なほ

徳光 吐苦

杉山 りつ

こばやし 星来

横田 則子

高瀬 潤

石澤 清宏

